

レファレンス

コーナー

アーカイブズを知るために

村井友子

近年よく耳にするようになった「アーカイブズ」であるが、そもそもアーカイブズとは何なのかと訊かれ明確に答えられる人は少ない。その原因は多分にアーカイブズという言葉の多義性にあると考えられる。アーカイブズは①歴史記録史料、公文書類、および企業など様々な組織が発行する文書、②それを保存する歴史資料館、公文書館などの施設、③資料を収集、整理、保存、公開する文書館機能の三つの意味を持つ。また概して日本ではアーカイブズというと古文書館を想起する人が多いが、アーカイブズは、様々な組織体が、自らの活動記録を公にし、社会に対する説明責任を果たすために必要不可欠な、いわば民主主義の基盤となる制度でもある。

多義性の高い「アーカイブズ」であるが、それはアーカイブズ学の学際性、日本および世界のアーカイブズ発展の歴史的経緯を反映したものである。

国文学研究資料館史料館編『アーカイブズの科学』上下二巻（柏書房二〇〇三年）は、日本のアーカイブズ研究の歴史的背景から到達点までを集大成したものである。同書は共同研究の成果であり、アーカイブズ学の他、古文書学・歴史学・図書館情報学など、アーカイブズ学に近接する学問分野の研究者が多数執筆している。また小川千代子・高橋実・大西愛編著『アーカイブ事典』大阪大学出版会（二〇〇三年）は、文書館としてのアーカイブズと文書としてのアーカイブズに関する総合的な事典である。文書館概論から、公文書の保存と公開、文書館の運営、専門職としてのアーキビスト養成制度、資料保存の科学、デジタル・アーカイブまでわかりやすく纏められており、文書館の現状を知るのに便利な一冊となっている。

一方、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編『日本のアーカイブズ論』（岩田書院 二〇〇三年）と青山英幸著『アーカイブズとアーカイバル・サイエンス—歴史的背景と課題』（岩田書院 二〇〇四年）は、明治中期以降の古文書学の形成にはじまり、戦後欧米のアーカイブズ学の強い影響を受け、一九八〇年代以降その理論の積極的導入とともに発展していったアーカイバル・サイエンスの形成過程が論じられたものである。

以上は日本および欧米のアーカイブとアーカイブズ学に重点を置いた

書籍であるが、開発途上国のアーカイブズに関しては、研究蓄積に地域的な偏りがある。アジア諸国については、旧日本植民地や占領地における文書やアーカイブズの管理・廃棄・接収、移動等に関する事実研究が戦争責任と歴史検証の立場から進められてきた経緯がある。このため目録類を含め豊富な研究蓄積が存在する。また研究交流も盛んで、例えば、東アジア（中国・韓国・台湾）の情報資源の共有化を目的とした共同プロジェクトが現在進行中である。

これに対し、非アジア地域については、文書館の紹介記事さえみつからない国も見受けられる。こうした中で、小川千代子編『世界の文書館』（岩田書院 二〇〇〇年）は、欧米・アジア・アフリカ・オセアニア地域の文書館を幅広く紹介しており貴重な情報源となっている。また世界の文書館の趨勢を知るためには、ユネスコ・アーカイブ・ポータルと国際文書館評議会（ICA）のインターネット・サイトが役に立つ。

近年の特筆事項としては、東京外国語大学地域文化研究所のイニシアチブにより二〇〇二年に五カ年計画で発足した二一世紀COEプログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」プロジェクトがある。史資料ハブではアジア・アフリカ地域の歴史記録史料の共有・情報資源化・発信が目標に掲げられ、その成果は『史資料ハブ 地域文化研究』（年一回発行）で発表されている。例えば同誌のNo.

2（二〇〇三年九月）は、記録史料としてのオーラル・ヒストリーの可能性をテーマとしたシンポジウムの報告となっている。オーラル・ヒストリーは公文書の破壊や散逸の空白を埋めるオルタナティブな記録史料として、またマイノリティや政治的被抑圧者など自ら公的な記録文書を残す立場にない人々の歴史的記憶を記録する手段として、近年アーカイブズ学の中で重要性が再認識されてきた。

この他、歴史人類学会編『国民国家とアーカイブズ』（日本図書センター 一九九九年）は、国民国家論と記録史科学の連結という新しい提案のもとに開催されたシンポジウムを纏めたものである。国民国家の記憶としてのアーカイブズには、各々の国民国家形成の特質が現れるという前提のもとに、日本・フランス・中国・南北アメリカ・クローアチアのアーカイブズが論じられており、大変興味深い。

このように長年アーカイブズ後進国といわれてきた日本でアーカイブズ関連の活動が近年活発化してきている。二〇〇四年四月には日本のアーカイブズ学研究所とアーカイブズ教育の振興を目的として日本アーカイブズ学会が設立された。一〇月には同学会より『アーカイブズ学研究所』も創刊され、今後日本のアーカイブズ学のさらなる発展が期待される。

（むらい、ともこ）アジア経済研究所図書館